

一般質問

佐々木 常子 議員

ここからは

一般質問 7人の議員が登壇し、町政に対する質問をしました。

質問の
ねらい

がんでも安心して暮らせる社会へ

がんを体験し、がんと向き合って生きる、がんサバイバーにとってアピランスケアは重要。アピランスケアとは、手術や抗がん剤治療により、脱毛、爪の変形、皮膚の変色など外見の変化による苦痛を和らげ

るケアのこと。再発の不安や副作用などがある中、仕事などの社会活動をする上で、外見の変化は心の大きな負担となる。2023年に国のモデル事業も始まるが、自治体として、どう考え、どう取り組むのか。



ウィッグ (本人提供)

ここが
聞きたい

アピランスケアが重要

問 がん治療による脱毛などの外見の変化は、社会生活を送る上で、患者の心に大きな負担となる。ウィッグ助成など、アピランスケアを町として支援する考えはあるか。

答 国のがん対策推進基本計画では、がんとの共生が最重要課題の一つとされ、アピランスケアのモデル事業も検討されている。道内もがん対策強化が進むと考えられ、情報収集に努めていく。

ここが
聞きたい

がん教育にも取り入れて

問 治療による外見の変化は、自分らしさの喪失や人間関係の変化などの不安が悩みの本質となる。それを理解した上でのケアが重要。保健センターの研修などでアピランスケアも取り上げては、

答 アピランスケアは、がんとの共生という点で重要視されてきていると認識。推移の見極めと情報収集を行い、ケアの在り方について、研さんを重ねていく。

ここが
聞きたい

難聴放置の認知症リスク

問 難聴を放置すると、会話や社会活動が減少し、うつや無気力、認知機能低下につながる。補聴器の使用は認知症予防に一定程度の効果が期待できる。難聴に関する社会的な啓発も重要では。

答 認知症予防は単に補聴器使用の啓発等を行えば良いわけではなく、生活習慣に気をつけたり、人との交流を持つなどの働きかけが必要。引き続き、認知症ケアパス配布などを行っていく。

ここが
聞きたい

AED 使用率は女性が低い

問 女性へのAED使用は、胸への電極貼付など、ためられる場面がある。服を脱がずとも貼付できるが、下着に金属があり上手くいかないこともある。傷病者を覆い隠せる三角巾を備えては、

答 救命処置をためらわずに実施するには、AEDの正しい使い方の習得が重要。消防署による講習の受講を広く呼びかけていく。三角巾を備えることと使用率は直接つながらないものと考えている。

※1 AED (自動体外式除細動器) … 心臓の状態を診断し、不整脈があれば電気ショックを与え正常な状態にする機能を持つ医療機器。



当別町役場に設置している AED

【その他の主な質問項目】

災害対策としての自助・共助・公助の働きかけなど



一般質問

稲村 勝俊 議員

質問の
ねらい

次代につなぐ農業政策を！

需要の減少、農産物の輸入自由化、ウクライナ問題、生産資材の高騰など、農業を取り巻く環境は厳しさを増している。そのような状況の中、当別町の基幹産業である農業を持続可能なものとするためには、地域に

おいて課題を共有し、解決方法や今後の進め方を考えることが極めて重要である。当別町農業について、将来的な課題の解決方法や町として方向性を示す必要について質した。

ここが
聞きたい

農業課題の共有は

問

需要減少や資材高騰など、農業を取り巻く環境は厳しさを増している。また、地域の人々の価値観も多様化する中、今まで以上に農業課題を共有して協議を進めていく必要があるのでは。

答

農業再生協議会や農業 10 年ビジョン見直しなど、農業者・関係団体と意見交換する機会があるので、各地域や団体において、課題の共有を図っていただくよう働きかけていく。



田植え後の水田

ここが
聞きたい

中長期的な展望を示して

問

水田活用直接支払交付金のルールが定まらず、農業政策が転換期を迎える中、転作の自由選択や農用地整備など、次代の農業者が中長期的な展望を持てるように町として方向性を示すべきでは。

答

交付金の見直しは、町にとって大きな転換点。課題対応や方向性を示すため、農業 10 年ビジョンを見直している。課題を乗り越え、成長へつなげるため、関係者と一丸となって取り組みたい。



稲穂が垂れている様子

ここが
聞きたい

次代へつなげる努力を

問

当別町は休耕率が高く、整備が行き届かない農地を多く抱えているため、耕作地を少しでも良い状態で、次代へつなげる努力が必要では。

答

農業再生協議会の中でも、今後の農業をどうしていくのか、農業者や関係団体の皆さんから、いろいろな意見をいただいて協議し、方向性を出していくよう努めていく。



冬を迎える水田

一般質問

澁谷 俊和 議員



質問の
ねらい

ロイズ新駅開設に関連して

町には人口増加につながる住宅誘致を進める計画があるのか、具体的に明らかにしてもらいたい。また、ロイズ工場や道の駅周辺の道路に愛称を付けると町広報で報じられたが、地域住民から湧き出た呼称こそ、

効果が生まれ長続きして、歓迎されるのではないかと疑問。さらに、道路には歩道もなく車は60～70km/hで走行している。人が歩くのは危険であるため、よく考えるべきでは。

ここが
聞きたい

住宅誘致の計画は

問 令和4年に新駅が開設されたことは大変喜ばしいことだが、人口減少が進む中で、新駅を中心とした住宅誘致計画はあるのか。具体的に明らかにしてほしい。

答 現時点で計画はないが、新駅開業に伴い新たな土地利用に期待が高まっている。人口増加を目指す中で重要な地域であるため、より効果的、魅力的な土地利用となるよう計画を立てていきたい。

ここが
聞きたい

周辺道路の愛称問題

問 愛称は地域住民から湧き出て初めて効果生まれるのではないかと疑問。町費を使うこと、町が音頭を取っていくことは疑問。どのように考えているか。

答 愛称は愛着を持ってもらうこと、イメージアップや親しみやすさなど町外へPRになる。新駅開業時も多く報道されPR効果の高い地域。町の知名度、魅力を高めるため積極的に取り組む。



第2期当別町町営住宅等長寿命化計画



※ 詳細はこちらからご覧になれます。(当別町のホームページへ)

ここが
聞きたい

第2期町営住宅長寿命化計画

問 大雪などどんなことがあっても安心して暮らせる町営住宅を望んでいるが、第2期計画の計画期間を10年とするのは遅すぎるのではないかと疑問。計画自体を練り上げて進めることも必要では。

答 この計画年次にこだわることなく、計画の前倒しも考えているが、他の事業やその優先度、財政状況も併せて総合的に判断していきたい。

ここが
聞きたい

窓口対応に問題はないか

問 先日、町営住宅の入居を断られた人から相談があり、私から担当部署に確認したら入居できたことがあった。入居希望者への窓口対応は適切に行われているのか。

答 問い合わせには親切丁寧に対応するよう日頃から指示しているが、相応しくない対応があるならば、複数職員で対応するなどの改善を図り、入居希望者のニーズに沿えるよう努めていきたい。

ここが
聞きたい

豪雪時の除排雪体制は

問 令和3年2月の豪雪時、町には対策本部が設置されず大混乱となった。今年は太美に新しく雪堆積場が設置されるようだが、そのことや過去の反省を含め今後はどのように対応していくのか。

答 除排雪連絡協会における地域、事業者、町の3者それぞれの役割や協働の在り方、雪堆積場新設など各種取り組みの磨き上げを毎年繰り返し、当別モデルの除排雪の進化を目指していく。



一般質問

鈴木 岩夫 議員

質問の
ねらい

介護の負担増・給付削減やめよ

社会保障審議会の3年に1度の介護保険制度見直しについて報じられた。介護保険の負担増や給付削減などの懸念について質した。また、農業において危機が拡大している。基幹産業である農業を守る方策について

質した。また、町内における風力発電所計画は、方法書から準備書段階に差し掛かっており、計画に懸念を抱く町民から不安の声が出ている。町の事業者に対する認識について質した。

ここが
聞きたい

介護法改定でどうなる

問

2024年の介護保険法改正に向けて、利用料増額や介護サービスの給付削減などの検討課題が厚生労働省より示された。これ以上の負担やサービス低下を招かぬよう国に求めるべきでは。

答

国の社会保障審議会介護保険部会の審議内容を注視するとともに、利用者の負担増やサービス低下が起こらないように、必要に応じて国や道に要請を行っていく。



介護の様子（イメージ）

ここが
聞きたい

5年ルールの見直しを

問

基盤整備されていない地域、投資能力が十分でない農業者がいる状況において、水田活用直接支払交付金の5年ルールは現実的でない。10年、20年先を見通せる政策を国に求めるべきでは。

答

国は交付金見直しに地域の実情を勘案するとして、基盤整備事業が実施される場合には、5年ルールを適用しないことが認められた。引き続き、町の実情が勘案されるよう国に要望していく。

ここが
聞きたい

医療体制は大丈夫か

問

コロナ患者の受け入れ病床がひっ迫し、在宅で亡くなる高齢者が出ていると報道された。介護を要する高齢者への医療体制について、入院を含めて迅速に対応できるようになっているか。

答

道は感染者数把握を全数から重症化リスクの高い人等にシフトし、健康観察対象者を限定。これにより高齢者の体調が変化しても、入院を含めて迅速に対応できるよう改善されたと考えている。



当別町の自然環境

ここが
聞きたい

事業者に対する認識は

問

風力発電計画を進める事業者について、国への申請過程で法に抵触する状況が見られたり、住民説明会で不誠実な対応など、好ましくない事業者だと懸念しているが、町長の認識は。

答

説明会の回答に一貫性がなく明確でないこと、対応の不誠実さなど、住民との合意形成は極めて不十分であると認識。環境アセスメントに対する意見としても道に提出済みである。

一般質問

山崎 公司 議員



質問のねらい

ロイズタウン駅周辺の今後の開発

当別町を持続可能なまちとするために、「ロイズタウン駅」周辺の開発をはじめ、札幌市に近いメリットを最大限に生かしたまちづくりが重要と考えるが、今後どのように展開していくのか質した。また、マイナ

ンバーカードの普及状況や認定こども園における通園バスの利用確認について質した。最後に、子育て世帯支援の進捗状況、公共施設使用料の見直しについて質した。

ここが聞きたい

新駅周辺の目標人口

問 当別町第6次総合計画では、2030年までに人口16,000人を目標としていることから、新駅周辺では300世帯1,000人以上を目標とし、コンパクトなまちづくりを行うべきでは。

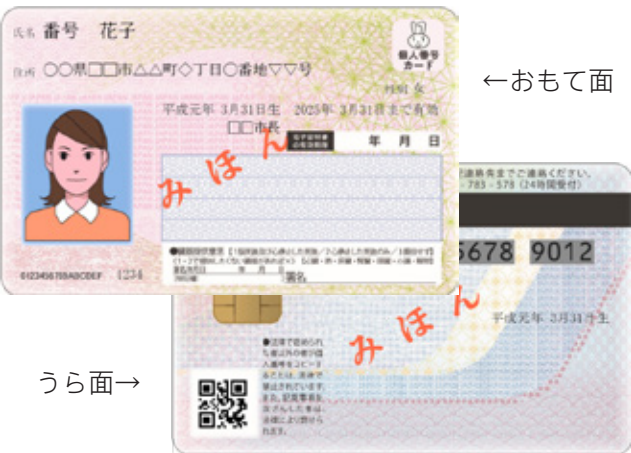
答 現時点で新駅周辺の住宅地は考えておらず、数値目標も設定していない。町全体としては、当別駅、太美駅中心のコンパクトなまちづくりにより総合計画に定めた人口を目指していく。

ここが聞きたい

庁舎や電子図書館を

問 新駅周辺の都市機能として、商業施設、庁舎などの公共施設、地域包括支援センター窓口、電子図書館などを検討する余地はあるか。

答 都市機能の充実には町全体で考える必要がある。新駅周辺のPRや企業誘致、周遊環境整備、開発事業者との継続的な協議などを進め、段階的な土地利用につなげていきたい。



マイナンバーカード見本 (総務省提供)

ここが聞きたい

マイナンバーカードの現状

問 マイナンバーカード交付率に依り交付税等に差を付ける方針も示されたが、当別町の交付率は。また、取得を希望しない人への対応や個人情報流出の懸念に対し、どのように対応していくのか。

答 令和4年11月末現在、46.8%の交付率。取得を希望しない人には、今後の手続きで不便が生じる可能性を伝え、情報流出の懸念に対してはカードの仕組みを説明し、不安軽減に努めている。

ここが聞きたい

通園バスの利用確認は

問 静岡県で通園バスに女儿が置き去りにされ死亡する事故が発生したが、町内の認定こども園では、送迎バスの利用確認等はどのように行っているのか。

答 乗降時の名簿確認を複数人で実施している。また、11月からはバス管理システムを導入し、システムと連動した名簿管理を行うなど、運行管理と安全確認のさらなる強化を図っている。

ここが聞きたい

公共施設の利用料

問 65歳以上は町外利用者でも無料としているが、それらの方を有料とし、町内の児童生徒を無料にはできないか。

答 町教委として、施設利用料については、町長部局と協議を進めており、町全体の統一した考えの下で見直しを図りたい。

【その他の主な質問項目】
人口減少対策の進捗状況、新駅前広場の有効利用と再生可能エネルギーの活用 など



一般質問

佐藤 立 議員

質問の
ねらい

町全体を俯瞰した賑わいづくり

第6次総合計画や都市計画マスタープラン、立地適正化計画などで、当別駅周辺及び太美駅周辺の地域を中心としたコンパクトで持続可能な市街地を形成するというランドデザインが示されている。役場新庁舎

の機能検討が進む今こそ、地域全体を俯瞰してこのランドデザインを具体化する必要がある。また、教育行政において、継続的な課題である待機児童と通学かばんの重さ、デジタルツールの活用についても伺う。

町へ貢献する公共施設とは

問 公共施設が「町の活性化に貢献する」具体的な姿を、「町民に親しまれ、子育て世代と北海道医療大学生を中心とした多くの人が集い、地元商業者の売り上げが増える」と定義してはどうか。

答 そもそも公共事業は、多くの町民の利便性を高めるために行われるものであるため、限定的に定義することは馴染まないと考えている。

街の中で誰が何をするか

問 公共施設の配置にあたっては、具体的にどのような人が、街の中で何をするのかイメージしながら考えていく必要があるのでは。

答 多くの住民が町のクオリティ向上を実感できるように事業展開するため、個別計画を作りたいと考えている。また、どのように外から人を呼び込むかを重点に、具体策作り努めていきたい。

町民と考えるまちづくり

問 まちの賑わいづくりにあたっては、決まったものを説明し、それに対して理解をもらう流れではなく、検討中のものは検討中のものとして意見をもらい、町民と一緒に考えて進めるべきでは。

答 以前は決定後に説明会を行うなどしていたが、今はできるだけ町民から意見をもらう場を作り、事業を具体化していく形を取っている。できる限り、この方針で進めていきたい。

待機児童を防ぐために

問 保育士の確保を支援するために、既存の支援制度拡充などの方策を検討する必要があるのではないか。

続3年ごとの一時金給付、保育支援者配置や保育士の加配に対する補助など、人員確保を中心に支援している。待機児童の発生を抑える施策について、町教委と町長部局とでしっかり調整していきたい。

タブレットでかばんを軽く

問 デジタル教科書^{※1}やAIドリル^{※2}などは、学習効果を高めるだけでなく、家庭学習でのタブレット活用や通学かばんの重さ対策にも有効。全児童生徒へ速やかに導入する必要があるのでは。

答 現代に求められる教育の実現のため、PC端末の持ち帰りは必須。児童生徒の学習環境整備に向け、AIドリル等のデジタルツールについて、令和5年度予算に盛り込むよう進めている。



PC端末を使う児童（とうべつ学園提供）

【その他の主な質問項目】
認定こども園との保育需要に係るデータ共有 など

※1 デジタル教科書…紙の教科書をデジタル化した教材。タブレットやパソコン上に表示して使用できる。

※2 AIドリル…AI（人工知能）を導入したドリル。AIが一人ひとりの理解度に応じて、苦手な問題を表示するなどの機能がある。

一般質問

古谷 陽一 議員

次のページは

議案の審議結果 本会議では多くの報告や議決が行われました。

質問の
ねらい

基幹産業の農業振興の取り組みを

国民の命を支える農業者が安心して生産活動を行うために、水田活用直接支払交付金見直しへの対応として、農地基盤整備は欠かせない。さらに、地元の課題を訴えること、新規就農者の受け入れ態勢強化が必要

である。また、町の活性化に向けた商店街や市街地の土地利用について、官民協働で進めることが必要であることや、除排雪体制のさらなる充実、姉妹都市との学校交流などについて質した。



稲刈りの様子

ここが
聞きたい

オール当別で中央要請を

問 水田活用直接支払交付金の見直しは、当別町にとって大きな問題で、クリアできなければ死活問題となる。国は地元の声を聞き入れるとのこと。オール当別で中央要請する必要があるのでは。

答 本町の実情に即した見直しとなるよう、道・町村会を通じて国に要望してきているが、必要となれば、農業関係団体の皆さんとともに、農業者の声を直接国に届けていきたい。

ここが
聞きたい

町も土地改良の取り組みを

問 農業者は5年以内に水張りをしようとしているが、自力での整備は限界。土地改良区も懸命に取り組んでいるが、全てには取り組めない。町も土地改良への取り組みが必要では。

答 まずは、農業者の皆さんが、当別の水田を維持発展させていくためにどうしていくべきか、地域や組織で議論して、方向性を出していただくことが重要なのではないかと考えている。

ここが
聞きたい

市街地の活性化対策

問 地域特性を把握し、調和の取れた土地利用をすることが、新しい賑わい創出につながる。新庁舎周辺や商店街活性化に向けて、官民連携で都市機能を分担し、コンパクトシティを実現しては。

答 立地適正化計画に示しているとおり、都市機能充実を図り、市街地活性化の検討を進めている。民間ビルへの公共施設区分導入など、官民連携してコンパクトなまちづくりを推進していく。

ここが
聞きたい

除排雪体制について

問 除排雪体制は他市町村と比べるとまだ不十分と考えているが、情報収集や調査研究はどう進めていくのか。また大雪が発生した場合はどう対応するのか。

答 当別モデルの構築を目指して研究を重ねてきており、他市町村と比べて劣るものはないと認識。大雪など緊急時は、除排雪作業の時間延長など、オール当別での対応を考えている。

ここが
聞きたい

姉妹都市との学校交流

問 姉妹都市との交流は意義深いものの、積極的に小中学生の交流を実現することが姉妹都市の絆を深めるのでは。

答 ふるさと教育を活用し積極的に取り組む。オンライン交流も視野にいれ、姉妹都市との絆がより深まるよう検討する。

【その他の主な質問項目】
当別町農業総合支援センターの活動強化、官民連携によるとうべつ学園周辺の開発 など